

平成 20 年 9 月 1 日



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

秋田赤十字乳児院

〒010-0041
秋田市広面字釣瓶町100-3
T E L 018-884-1760
F A X 018-884-1762
相談電話 018-884-1761
URL <http://www.akita.jrc.or.jp/nyujiin/>

広報誌 第 11 号

よちよちちゃん



～再会～

かつて担当した子どもが「ママになったよ」とうれしい報告。退職した職員も駆けつけ、懐かしくも、感激の再会となりました。 ー 8月30日 ー



巣立った子どもたちに再会

成長した姿に感激



7月24日・8月21日秋田市の児童養護施設、感恩講児童保育園17名、聖園天使園12名が来院し乳児院の子どもたち、職員との交流会が行われました。乳児院を退所してから、しばらくぶりに会う、幼稚園や小学生に成長した子どもたち。担当だった職員とアルバムやビデオを見ながら乳児院にいたころの話、学校での様子や夏休みの宿題、好きな教科の話などを語り合いながら思い思いの時間を過ごしました。



赤ちゃんを抱きながら、担当だった職員と語り合う子どもたち

小学生のお姉さんは、赤ちゃんを抱っこし、ミルクを飲ませてくれるなど乳児院の赤ちゃんに優しくお世話してくれるなごやかなムードの交流会となりました。

10年ぶりに担当した子どもと再会した看護師は、「ロッカーに貼ってある赤ちゃんの頃の写真を一緒に見ながら話をしました。大きく成長した姿に感激です」と語ります。

昼食は、乳児院特製カレー。同じテーブルを囲んで昼食会となりました。



子どもたちからのお礼の手紙

「楽しかったよ」
「私は、わからなかったけど、私のことを覚えている先生がいてうれしかった」

石山事務長が語る

交流会への思い

交流会のきっかけは

陽清学園の遠藤先生から、「俺、どこから来たんだ？」と不安そうな顔で聞いてきた。自分の今に繋がる前がわからないことは、子どもの心がつらく、不安定で落ち着かず、乱暴な行動を引き起こすこともあるので、記憶の連続性は大事なんだよね。と話されたことからです。

記憶をつなぎ合わせるにはまず、乳児院を知ってもらうこと。小さい頃を懐かしむことができることが必要と感じました。幸いにも当院には「あの頃〇〇ちゃん是这样だったんだよね」と話せるベテラン職員がたくさんいるので、乳児院に招待することを事業内容としました。

あえて行事などを計画しないで普段の業務の中に入って養育風景を見たり、自由に遊んでいって欲しい。ちょうど久々に実家に帰ったときのように・・・

交流会の効果は

職員にとっても、巣立って行った子どもたちの成長をみることは、仕事に対しての肯定感、充実感を得て、次への仕事につながります。また、乳児院の子どもたちが養護施設への措置変更があった場合は、顔見知りになった先生やお友達がいることでスムーズな移行が期待されることから、私たちにも安堵感が得られます。

今後の予定は

秋には動物園へ一緒に行ったり、運動会に招待しての交流が続きます。

子どもの成長はとっても楽しみです。その分私たちも年を・・・

『カレーライスおいしかったよ』 次々に感謝の言葉をもらって大カンゲキ

小さくて、食も細かった子が「おかわり！！」と沢山食べてくれました。

大きくなった子どもたちに会えてうれしく思いました。

佐藤栄養士

大量のごはんとカレーの仕込みはたいへんでしたが、「おいしかったよ。」の言葉に苦労もふっとびました。

佐藤調理師





ママにかわって安心保育

デイケア 土日も利用可



院庭での水遊び

乳児院ではご希望の時間帯で
お子さんをお預りしています。

対象年齢 生後1カ月～3歳まで

利用時間 通常 7:00～18:00

延長・夜間 18:00～22:00

予約 当日も受けます

料金等、問い合わせ・申し込みは
秋田赤十字乳児院まで



ペットボトルを使ってのおもちゃ製作



利用者の声



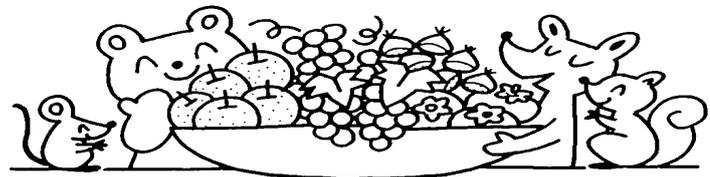
ディケア利用の智也くんとママ

「新しい言葉を覚えてきたり、
写真の様子から家では見られな
い一面を見られるのが楽しみです。」

森井真也子さん（智也くん 2歳
利用）

「子どもたちの生活してい
る様子が見えるので安心で
す。いつも給食をたのめる
ので、助かります。」

森谷悦子さん（美月ちゃん
2歳利用）

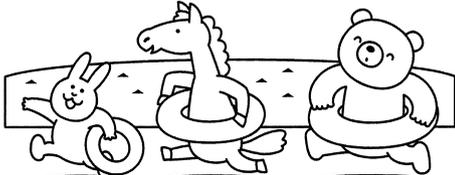


夏は海が最高！！ 7月31日 秋田市下浜海水浴場

天気は晴れ。水着に着替えてい
ざ海へ。

波と戯れ歓声を上げる子、シャ
ベルとバケツを手に砂遊びに興じ
る子、「いや～」、「こわい～」と保
育者の足にしがみついている子。

しかし、スイカ割りが始まるとみ
んな真剣です。海を眺めながらの
スイカは、いつものよりおいしく
感じられました。



毎年お世話になっている海の家
「やよい」でラーメンとアイスクリ
ームを食べて、波の音の子守唄にお
昼寝・・・

夏の日を楽しみました。



大きなスイカをカブリ
この夏一番の笑顔

ぱくぱく食育ぶらざ

収穫した野菜と季節の果物に 触れてみよう！

いつも調理された野菜を見る事の多い中で、家庭菜園で収穫した野菜に触れてみました。

色鮮やかな野菜に「ワー」と歓声が上がリ、すぐに手に取り口へ運び、なでたり・叩いたり感触を確かめる子もいました。

「スイカ」・「なす」・「トマト」と名前を教えてください、「これな〜に」と聞いてくる子がいたり、直接見たり触ったりする事で、興味や関心がもてたようです。

昼食時には話題になりいつもより楽しく食べられました。野菜を好きになるのはこれからです。今後も体験を通して苦手な野菜を克服し、においや感触を連想できるくらいになってもらいたいですね。



～野菜の話をする栄養士～
「緑の野菜は、うんちがもりもり。たくさん食べようね。」

グリーンだより



収穫したスイカは真っ赤に熟れ、ちょうど食べごろ！「スイカちょうだい」と試食に手を伸ばす子どもたちです

スイカの収穫成功

8月6日、ポンポンとスイカの表面をたたき、熟れ具合を確認し、慎重に収穫しました。畑担当の斉藤先生「音で聞き分けるのは難しいですね。はじめのうちは中が青くてパンパンに詰まった音。それが変化してくるんです。割ったときのみんなの顔が楽しみです。」



「畑に行く」「キュウリ、キュウリ」子どもたちの朝の日課となった野菜の収穫。かごに野菜を入れ、給食室まで運ぶと、みんな一仕事終えた自慢げな顔で戻ってきます。



これからの主な行事予定

- 9 / 4 (木) 愛あいクラブ
- 6 (土) 幼児安全法講習会
- 7 (日) 里親研修会
- 12 (金) 陽清学園との交流会
- 25 (火) 平成20年度社会福祉法人等指導監査
- 10 / 4 (土) 運動会

編集後記

..泣き虫だった子も、よだれが止まらなかった子も、元気な小学生になっていました。お母さんになった幸せを分けに来てくれた子もいました。ほんとうに小さかったあなたたち...幸せを願っています。

